

## 汎用的な能力の育成を目指した協働的な学習活動の試み

### —英語科の活動を通して—

中島 義和 ・ 樫葉みつ子\*

#### 1. はじめに

筆者(中島)は中学校での英語科の授業を担当するようになって以来、学習者の表現力を効果的に育成する授業・活動、学習者集団が主体的・自律的・協働的に学習の場を創り出し、学習を進めていく授業・活動、思考と表現の往還の中で学習の深化を図ることを目指した授業・活動について研究・実践を重ねてきた。

また、それと同時に、グローバル社会を生きていく子どもたちに必要な力を、中学校の英語科授業において、どのように育てていけばよいか、さらには、その力が英語の授業内にとどまらない、他教科や他の場面や状況でも活用できる汎用的な力として機能するためには、英語科の授業を通して何ができるのかを探究してきた。そこで、英語科の授業を通して育成を目指す、必要な力を以下の2つの視点の下に、各カテゴリーとして分類し、生徒に示した。

#### 1. 英語に関してつけたい力＝英語力

(教科特有の能力・教科の本質を支える力・教科の魅力)

- ①英語を読む力, ②英語を話す力, ③英語を聴く力, ④英語を書く力,
- ⑤英語の語い力, ⑥英語の文法の力

#### 2. 様々な場面で活用できるつけたい力＝汎用的な資質・能力

- ①計画する力, ②協働する力, ③議論する力, ④受容する力, ⑤創造する力,
- ⑥決定する力, ⑦実行する力, ⑧表現する力, ⑨省察する力, ⑩改善する力

本稿では、上記に示した力の育成を生徒にも意識させつつ、学習活動の実践の紹介および生徒へのプレ・ポストアンケート、活動後の振り返りワークシートの記述からの分析を通して、本活動の意義を検証する。

#### 2. 研究の構想

##### 2-1. 研究目的

英語科の授業で核とでも言うべき、「コミュニケーション」。コミュニケーションを図る際には、対象となる相手・宛先が存在し、何らかの目的があるものである。そして、コミュニケーションには、互いにとって共通となるトピック・話題が存在する。本学習活動では、4人の学習班というユニットでのコミュニケーション、そこで目的(グループであるジャンルの英語のミニ番組を制作する)達成のために、協働的にその課題を解決・達成する一連の活動に焦点を置く。また、そのミニ番組はクラス全体という対象・相手に向けられるものであることも意識させる。コミュニケーション・表現・発信の際には、「対象」と「目的」を意識するように常々指導してきているが、これは英語科の学習にとどまらず、様々な場面でも共通する汎用的な視点である。そして、完成したミニ番組をクラスとして1つの番組(a Shinonome TV show)として録画して、全員で視聴することで、客観的な視点、評価の目を養うことを目的としている。

\*広島大学大学院人間社会科学研究科

Yoshikazu NAKASHIMA, Mitsuko KASHIBA

A report on the trial of cooperative activities in which students try to acquire abilities for general purposes  
—through the activities of English—

中島義和・檜葉みつ子(2020),「汎用的な能力の育成を目指した協働的な学習活動の試みー英語科の活動を通してー」, 広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第50集」, 29-42.

この学習活動を通して、生徒たちに目的のあるコミュニケーションの場を与えること、そして課題を協働的に解決する経験の場を与えることが授業としてのねらいであるが、研究の視点からは、プレアンケートから生徒たちの実態とニーズをつかみ、活動後のポストアンケートや振り返りからそのニーズを満たしているか、また、活動後の達成状況などをつかみ、本学習活動設定の意義と有効性を検証することが目的である。さらに、本活動が生徒たちにとっての英語学習の動機づけとなり得るのかも検証すべき研究課題の一つである。外国語教育における学習者の動機づけ (motivation) は、学習意欲と呼ばれることもあり、言語学習が成功するか否かを左右する重要な要因の一つであると考えられている

(Dörnyei, 2001, 2005 ; 本田, 2008)。この点からも、協働的に課題を解決していく活動におけるコミュニケーションを通して、生徒たちの英語学習への動機づけがなされるのは同タイプの活動を今後提供していくにあたり、大きな関心がある。

以上のように、本研究では、次項に示した研究仮説の検証とともに、本活動ではどのような英語力および汎用的な能力の育成が不足しているのかを見出し、年間として、それを補う英語科の学習活動の可能性を模索したい。

## 2-2. 研究仮説

本実践研究において、以下の2点を研究仮説として設定した。

- (1) 生徒たちが、番組づくりというグループで目的をもってコミュニケーションをとり、協働的に課題を解決していく活動を通して、英語学習への関心が高まり、英語への学習意欲・動機を高めることができる。
- (2) 本活動を通して、英語科の学習だけではなく、他教科や他の場面でも活用が期待できる汎用的な能力を身につけるきっかけが得られる。

## 2-3. 研究方法（検証方法）

### (1) 概要

- ① 生徒の実態とニーズを探ることを目的としてプレアンケートを実施する。
- ② アンケートを参考にし、本研究の核となる授業“Let's make a Shinonome TV show!”の計画を構想する。
- ③ 表1の計画に基づいて、授業や活動を実践する。(全8時間)

表1 “Let's make a Shinonome TV show!”活動計画

第1時	活動の概要説明（「つきたい力」についての説明、学校経営目標との関連説明含む）、モデル文の学習、番組ジャンル選択・決定
第2時	内容についての意見交流
第3時	台本制作
第4時	台本制作、小道具制作
第5時	小道具制作、発表練習
第6時	発表練習、リハーサル、最終調整
第7時	本番（撮影）、振り返り
第8時	完成番組視聴、評価・振り返り

- ④ 毎時提出される生徒の記述したワークシートを点検する。
- ⑤ 活動終了時に生徒が記述した振り返りやアンケートの内容から研究目的に示した内容に関して、その学習効果や目的達成具合等について検証・考察する。

### (2) 対象

広島大学附属東雲中学校 2020年度 第1学年 80名

### (3) 期間

2020年12月～2021年2月

### (4) 分析・検証対象

- ① 授業中の活動の様子・反応
- ② ワークシート・学習活動の記録・振り返りシートの生徒の記述
- ③ 観察や活動による成果物
- ④ 各種アンケート調査（個人質問紙）

### 3. 授業・活動の実際

#### 3-1. 授業・活動のねらい

以下に、英語科の視点から、汎用的な能力育成の視点からに分けて示しているが、両者ともに一方の視点からのねらいにもなり得る。

##### 〔英語科の視点から〕

- ① 1年生で学習してきた英語を活用し、4人から成る学習班で、決定したジャンルについてのミニ番組を制作するという課題に、協働的に目的意識を持ってコミュニケーションを図り、取り組む。
- ② 「対象」と「目的」を意識した、番組内容やセリフ、表現（語彙・言語材料・英語特有の言い回し等）を考える。
- ③ 「対象」と「目的」を意識して、表現を工夫して伝える。

##### 〔汎用的な能力育成の視点から〕

- ① グループでの協働的な活動を通して、時間を意識して計画的に活動を進める。
- ② グループのメンバーの意見を受け入れ、尊重しつつ、議論を活発化させ、合意形成を目指す。
- ③ 客観的・俯瞰的視座で、自己・他者評価の目を養う。評価の視点を自分でつくる。

#### 3-2. 授業・活動の構想：全8時間（表1参照）

#### 3-3. 授業の実際

授業は全8時間、以下の流れで展開した。なお、授業後には毎回記録シートに振り返りを記入し、提出することになっていた。

##### 〔第1時〕

図1（ワークシート No. 74）参照

- ・活動の概要を説明する。
- ・本活動を通してつけたい英語の力・汎用的な力を意識させ、目標を設定させる。
- ・番組のジャンルの紹介とモデル文の学習でイメージを持たせる。（モデル文は図1のワークシート参照）なお、モデル文には1年生で学習した言語材料を幅広く活用するように意識した。また、シェイクスピアの名言・四大悲劇の紹介、英語のクイズなどを入れ、単なるモデル文の学習に終わらないような工夫もした。
- ・グループごとに番組のジャンルを選択させ、決定する。ジャンルは、以下の10個の中から各グループ第5希望まで選択し、重複しないように決定する。よって、クラスで10のジャンルを網羅することになる。

- (1) News (2) Sports
- (3) Weather (4) Interview
- (5) Comedy (6) Drama
- (7) Music (8) Quiz
- (9) Mail order (10) Commercial Message

For 7th graders of Shinonome Junior High School attached to Hiroshima University

## English Worksheet [No.74]

by Yoshikazu Nakashima

Let's make a Shinonome TV show! (1)

--- Let's try to think how to express!

At first, you choose one theme in **STEP 1**. You make a TV show or CM about the theme. Let's cooperate with your group members.



**STEP 1** Let's select our group's theme!

(1) News / (2) Sports / (3) Weather / (4) Interview / (5) Comedy  
(6) Drama / (7) Music / (8) Quiz / (9) Mail order / (10) Commercial Message

**STEP 2** Let's practice some model expressions!

**(1) News** A big earthquake happened in Tohoku Area. People in Tohoku, please be careful for a tsunami.

**(2) Sports** Hiroshima Toyo Carp won the game. Mr. Suzuki is a very good baseball player.

**(3) Weather** It is rainy in Hiroshima today. It is very cold. Please go out with a warm sweater.

**(4) Interview** Today we have a guest. His name is Funassy. He is a popular *yuru-chara*. He was born on July 4th, 138.

**(5) Comedy** Don't worry. I'm wearing underwear.

**(6) Drama (Musical / Movie)** To be, or not to be: that is the question.  
William Shakespeare 『ハムレット』第3幕第1場より ★4大悲劇: 『ハムレット』『オセロ』『マクベス』『リア王』

**(7) Music** NiziU sings the song "Make you happy." This is a very good song. This song makes you happy! Let's try to listen to this song.

**(8) Quiz** No.1 The more there is, the less you see. What am I?  
No.2 Feed me and I live, yet give me a drink and I die. What am I?

**(9) Mail order** Look at this. This is new. Its name is "Beautiful Kitchen Cleaner." You can clean the kitchen with this. How about this one?

**(10) Commercial Message** This food is very delicious. You can't stop eating this. Let's try this!

Class \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

図1 ワークシート No.74  
(番組のジャンルとモデル文を示したもの)

【第 2 時】

図 2 ワークシート No. 75 参照

グループで取り組むテーマ, 番組名, 登場人物, あらすじ等を考える。

【第 3・4 時】

図 2 ワークシート No. 76 参照

セリフを考え, 英語で表現し, 台本を作成していく。

【第 4・5 時】

小道具を制作したり, 発表の練習をしたりする。

【第 6 時】

写真 1 参照

発表練習やリハーサルを行うなど, 本番に向けての最終調整をする。

【第 7 時】

写真 2 参照

本番として, 撮影を行う。撮影をするカメラマン 2 名, 計時を行うタイムキーパー 2 名, はじめの言葉と終わりの言葉を担当する各 1 名を選出したり, 撮影の順番を決定したりする。各グループの持ち時間は 4 分である。グループごとに, 作った小道具を使ったり, ICT 機器を積極的に活用したりと工夫をしていた。また, オーディエンスも出演者からの問いかけに応じたり, 拍手を送ったりと協力的な様子がうかがえ, クラスで一つの番組を「創り上げていく」雰囲気, クラスとしての一体感が醸成されていた。

For 7th graders of Shinonome Junior High School attached to Hiroshima University  
English Worksheet [No.75] by Yoshikazu Nakashima

Let's make a Shinonome TV show! (2)  
--- Let's try to think how to express!

STEP 3 Let's talk with your group members about the theme!

[Your group's theme] \_\_\_\_\_  
[Program Title] \_\_\_\_\_

[Characters]

1 \_\_\_\_\_ : \_\_\_\_\_  
2 \_\_\_\_\_ : \_\_\_\_\_  
3 \_\_\_\_\_ : \_\_\_\_\_  
4 \_\_\_\_\_ : \_\_\_\_\_

[Plots]

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

Class \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

---

For 7th graders of Shinonome Junior High School attached to Hiroshima University  
English Worksheet [No.76] by Yoshikazu Nakashima

Let's make a Shinonome TV show! (3)  
--- Let's try to think how to express!

STEP 4 Let's make your group's script!

[Script] 1-( ) Group: ( )

Title \_\_\_\_\_ character \_\_\_\_\_ line \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

Class \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

---

For 7th graders of Shinonome Junior High School attached to Hiroshima University  
English Worksheet [No.77] by Yoshikazu Nakashima

Let's make a Shinonome TV show! (4)  
--- Let's try to think how to express!

STEP 5 Let's practice and rehearse your performance!

STEP 6 Let's watch and listen to the other groups' performance!  
Please write some comments about the other groups' performance.

group	Title	Theme	Comments
A			
B			
C			
D			
E			
F			
G			
H			
I			
J			

Class \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

---

For 7th graders of Shinonome Junior High School attached to Hiroshima University  
English Worksheet [No.78] by Yoshikazu Nakashima

Let's make a Shinonome TV show! (5)  
--- Let's try to think how to express!

STEP 7 Let's evaluate your own and your classmates' performance!

(1) About my own performance

⊙ \_\_\_\_\_ Δ \_\_\_\_\_

(2) About our group's performance

⊙ \_\_\_\_\_ Δ \_\_\_\_\_

(3) What you learn from your classmates' performance

\_\_\_\_\_

(4) Remarks

\_\_\_\_\_

Class \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

図 2 ワークシート No.75~No.78



写真 1 グループで本番に向けて話し合ったり, 練習をしたりする様子



写真 2 本番の様子 左から、クイズ、通信販売の各番組とカメラマン・タイムキーパー

【第 8 時】

図 2 ワークシート No. 77, No. 78 参照

完成した番組を全員で視聴しながら、評価や振り返りを行う。評価は、自己評価と他者評価があり、いずれも記述で行う。

なお、ネイティブ教員による評価も行っている。ネイティブ教員による評価シートは図 3 を参照されたい。観点は①Attitude ②Voices ③Facial Expressions/Gestures ④Story/ Content の 4 つであり、それぞれ 5 点満点、合計 20 点満点で採点してもらった。その結果が表 2 である。また、ネイティブ教員は、特に優れていたパフォーマンスを行っていた生徒を各クラス 3 名程度選び、表彰している。

なお、生徒たちが毎回記録していた「学習活動の記録」シートは図 4 を、グループごとに作成した台本は図 5 を参照されたい。

表 2 ネイティブ教員による評価結果  
①Attitude ②Voices ③Facial Expressions/Gestures ④Story/ Content

Class	Group	①	②	③	④	Total
1	A	5	5	4	4	18
1	B	4	5	5	4	18
1	C	5	5	4	5	19
1	D	4	3	3	4	14
1	E	3	4	3	3	13
1	F	4	4	4	4	16
1	G	5	4	4	4	17
1	H	5	4	4	4	17
1	I	4	4	4	4	16
1	J	3	3	3	3	12
2	A	5	3	3	5	16
2	B	4	3	4	3	14
2	C	5	4	5	5	19
2	D	5	5	5	5	20
2	E	5	4	4	5	18
2	F	3	3	3	3	12
2	G	4	3	3	4	14
2	H	5	5	4	5	19
2	I	3	3	3	4	13
2	J	4	5	5	4	18
	Average	4.3	4.0	3.9	4.1	16.2

Class 1		Cameraman: / Timekeeper:			
Group	Evaluation	5×4=20pts			Comment
Opening (Tanaka)	① ② ③ ④	Total			
B	① ② ③ ④	Total			
D	① ② ③ ④	Total			
I	① ② ③ ④	Total			
H	① ② ③ ④	Total			
E	① ② ③ ④	Total			
A	① ② ③ ④	Total			
J	① ② ③ ④	Total			
F	① ② ③ ④	Total			
G	① ② ③ ④	Total			
C	① ② ③ ④	Total			
Closing (Tomiyama)	① ② ③ ④	Total			

図 3 ネイティブ教員による評価シート



#### 4. 考察と課題

##### 4-1. 検証と考察

##### (1) アンケートの結果からの検証・考察

##### ①英語への興味・関心度, 得意・自信度

英語への興味・関心度を5段階で尋ねるアンケートを実施した。プレアンケートは、活動実施前、ポストアンケートは活動実施後に行っている。以下表3および表4がそれぞれのアンケートの結果である。

表3 「英語への興味・関心度」アンケート（プレ2020年12月活動前, ポスト2021年2月実施）

興味・関心度			
	プレ(%)	ポスト(%)	増減(%)
5	32.9	41.6	8.6
4	51.9	45.5	-6.4
3	13.9	11.7	-2.2
2	1.3	1.3	0.0
1	0.0	0.0	0.0

表4 「英語の得意・自信度」アンケート（プレ2020年12月活動前, ポスト2021年2月実施）

得意・自信度			
	プレ(%)	ポスト(%)	増減(%)
5	6.3	2.6	-3.7
4	34.2	29.9	-4.3
3	22.8	41.6	18.8
2	27.8	23.4	-4.5
1	8.9	2.6	-6.3

英語への興味・関心度は、表3より、5が8.6ポイント増加しており、4が6.4ポイント減少となっている。これは、4の層が5に移ったと考えられる。従って、5および4の英語への興味・関心度が高いグループ全体としては2.2ポイントの増加となる。その増加分は3の層が移ってきたと考えられる。英語への興味・関心度1はプレ・ポストともにおらず、2は1.3%パーセントで維持しており、変化は見られなかった。以上のことから、研究対象全体としては、本活動を通して、興味・関心度は若干増加したものと見られる。

次に、英語の得意度・自信度は、表4より、1であった層が6.3%減少し、2であった層も4.4%減少していることがわかる。2および1の層が10.8%減少したことから、本活動の意義は大きいと言えよう。英語への自信がないと考えていた層が、「思っていたよりはできる」と自信を持つことにつながったようである。逆に、5が3.7%、4が4.3%減少している。プレの段階では、ある程度「英語が得意である、自身がある」ととらえていた層が全体として8.0%の減少を表している。比較的英語に自信を持っている層がその自信を失っていることになる。これは、本活動が、英語を自由に活用する本年度最初の活動であり、現実にぶつかった感覚をもったことに起因すると推測できる。また、英語に自信がある、得意である層は、本活動においてグループリーダーを担っていることが多く、活動の重要な部分を負っていたことが考えられる。そのため、自分の実践的な英語力の欠如に直面した可能性もある。

中島義和・檜葉みつ子(2020),「汎用的な能力の育成を目指した協働的な学習活動の試みー英語科の活動を通してー」, 広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第50集」, 29-42.

## ②英語でつきたい力

英語の力を「読む、話す、聴く、書く、語彙、文法」の6つに分け、つきたいと思う力をプレアンケートでは上位3つを選択させた。そして、各項目の選択数の総数に占める割合を表5に示した。このアンケートからは、第1位は「話す力」28.7%, 第2位「聴く力」21.5%であった。やはり、コミュニケーションに貢献する力の育成を求めていることがわかる。ポストアンケートでは、本活動でつけられた力は、第1位が「話す力」32.5%で圧倒的であった。次いで、「聴く力」16.9%となり、生徒の求める力の育成に寄与したのではないだろうか。

表5 「英語でつきたい力」アンケート（プレ2020年12月活動前，ポスト2021年2月実施）

英語の力			
	プレ(%)	ポスト(%)	増減(%)
読む	9.7	14.9	5.2
話す	28.7	32.5	3.8
聴く	21.5	16.9	-4.6
書く	17.7	10.4	-7.3
語彙	9.3	13.6	4.4
文法	13.1	11.7	-1.4

## ③つきたい汎用的な力

つきたい汎用的な力として、以下の表6の10の力を取り上げ、学校経営目標（図6参照）と関連づけて示した。

表6 英語の授業を通してつきたい汎用的な力と学校経営目標との関連

	汎用的な力	学校経営目標との関連
①	計画する力	先を見通す力
②	協働する力	コミュニケーション力・人とのつながりを大切にする力
③	議論する力	コミュニケーション力
④	受容する力	他者の意見や考えを受け入れる力・いのち
⑤	創造する力	創り出す・生み出す力
⑥	決定する力	自立・決断力
⑦	実行する力	自立・行動力
⑧	表現する力	表現力
⑨	省察する力	振り返る力
⑩	改善する力	変化・可能性

学校経営目標のキーワードを示したのは、すべての学校教育の活動は、この目標が土台となっているという考え方によるものである。

本アンケートのプレでは、この10の力からつきたい汎用的な力の上位4つを選択させた。また、ポストでは、活動を経て、つけることができたと思う汎用的な力を上位3つ選択させた。いずれも、各項目の選択数の総数に占める該当する汎用的な力の選択数の割合を算出し、その結果を、表7に示している。

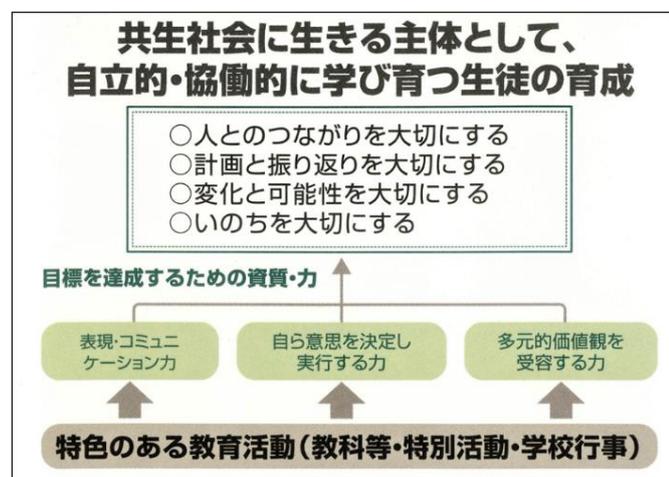


図6 本校の学校経営目標（本校ホームページより）

表7 「この活動でつきたい汎用的な力」(プレ2020年12月活動前)  
「つけられた汎用的な力」(ポスト2021年2月実施)

汎用的な力			
	プレ(%)	ポスト(%)	増減(%)
計画	12.0	10.0	-2.1
協働	13.0	12.6	-0.4
議論	8.5	13.0	4.4
受容	7.6	6.9	-0.7
創造	9.5	11.7	2.2
決定	8.9	8.2	-0.6
実行	12.3	9.5	-2.8
表現	16.8	12.6	-4.2
省察	3.2	8.7	5.5
改善	8.2	6.9	-1.3

表7より、プレアンケートでは、第1位「表現する力」16.8%、第2位「協働する力」13.0%、第3位「実行する力」12.3%、第4位「計画する力」12.0%であった。これに対して、ポストアンケートでは、第1位は「議論する力」が13.0%となっている。これは、一つの作品をグループで創り上げるにあたり、多くの議論を積み重ねてきたという事実によるものであろう。第2位は「協働する力」・「表現する力」ともに12.6%となっている。「表現する力」は、プレアンケートで生徒がつきたい力の第1位であった。聴衆に伝えることを意識してセリフを考えたり、演じたりする練習を重ねる中で表現の工夫を意識した学習が進められたと考えられる。「協働する力」は生徒がつきたい力の第2位であったが、それを実感できたようである。グループのメンバーとの協力なくしては成り立たない活動であったため、協働して物事を成し遂げた感覚がもてたのだろう。次に多い割合を得たのは、「創造する力」であった。限られた時間の中で、ジャンルやテーマ、内容を決め、セリフ・台本を作成したり、衣装や小道具を作ったりと様々に「創造する・創り上げる」局面の連続であったことに起因していると考えられる。次に「計画する力」と続く。こちらは生徒がつきたい力でも第4位と上位に入っていた。全8時間という限られた時間の中で、作品を創り上げなくてはならず、先を見通して計画的に取り組んでいくことが求められた。これにより、計画する力がついたと感じたのだろう。実際の活動の様子を見ていると、各グループのリーダーを中心に時間を意識し、本時で何をどのように進めていくのかを整理し、共有しながら活動に取り組んでいるグループが多いように見受けられた。

本アンケート結果から、最も増加が多かった項目は、「省察する力」であった。これは、毎回の授業終了時に図4で示した振り返りの記録を継続的に書いたことや、全ての活動が終了した後にも振り返りを行い、共有するなどしたことから、「省察する力」がついたのだと感じたものだと考えられる。しかし、省察した後には改善を目指したいものだが、「改善する力」は6.9%とその値が低かった。これは、セリフを作成し、演じるまでにはたどり着いたものの、上手くいかない部分を客観的にとらえるという振り返りはできたものの、磨きなおしていくという改善の活動段階までは到達できなかったことによるものと考えられる。また、「受容する力」も「改善する力」同様6.9%と低い値となっている。「受容する力」については、他者の意見を受け入れて、尊重して、吟味する余裕がなかったのではないかと、生徒の活動の様子から回想している。実際に生徒の活動の様子を見ていると、発表することで精一杯と見受けられたところもあり、アンケート結果と実態が一致している印象がある。

以上から、今後の課題としては、さらに「計画する力」を高めて先を見通した活動が展開できるようにすること、省察の質も向上させ、その省察を生かし、改善の段階を経験する余裕を持つことが挙げられる。これらのプロセスの経験が、さらに質の高いパフォーマンスをもたらすことだろう。

## (2) 振り返りシート記述からの検証・考察

以下, 生徒が振り返りシートに記入した記述の一部を, ①教科本質の力, ②汎用的な力, ③自由記述の3つの視点から示し, 考察する。

### ①教科本質の力に関する振り返り

A	今回の学習では, 本番で英語を話すだけでなく, 台本を英語で書く力も求められました。その中で英語を書くのは日本語の言いまわしを変えるなどして, ニュアンスを変えないけど, 直訳ではない英語にしました。そうすることで話す時に, 相手に伝わりやすい英語になったと思います。
B	英語で話す力で, <u>いつか外国の人と英語だけを使って, 会話をしてみたいと思っていたけど, その気持ちが強くなりました。発音にも気をつけて学習していきたいと思いました。</u>
C	英語の文法の力をつけようと思い, 教科書の基本練習や基礎英語を見ながら台本を作った。台本には, 演じる人の細かい動きを入れなくてはいけないので, 動詞のリストなども作成し, しっかりと活用できた。ナレーション役になったため, 台詞が少なく, 負担も軽いので, 台本作りに集中し, 英語の文法力, 語い力がついたと思う。
D	英語を話す力を高めたいという目標を立てましたが, 自分たちのテーマ(インタビュー)に使える英単語を探し, それらを組み立て, 一つの文にするという行程の中で, 少しは身についたかなと思います。そして, 少しだけけど, アドリブみたいなものも取り入れることができたので, 前よりも原こうの必要性が減ったかなと思いました。
E	私は, 今回の学習を通して, 英語は楽しくやった方が勉強にばっとうできるということを見ました。なぜなら, つまらないな, 苦手だなという意識があるかぎり, 勉強はいつまでも続かないからです。
F	今回の学習では, アクセント・発音を含めて英語を話す力が身についたと思います。実際に自分の発表を見てみて, 発する言葉が聞きとりやすくなったと感じました。声の調子を変えたりしながら, 英語を話していた。顔であまり表現できないからこそ, 声の調子で気持ちの表現ができていたと思う。
G	全体的にみると, 成功したとはいえませんが, セリフをスムーズ, 自然に言えるようになったのは, 自分の中で大きな成長でした。また, 一番苦手な「聴く力」も今回の TV show で内容の意味を理解して楽しめたので, 少しついたと思います。
H	原こうを暗記することはできましたが, 相手に伝えようとしていなかったし, 自分が次のセリフを思い出すだけで精一杯でした。暗記することも大切だけど, 伝えるということも大切だと思うので, 自分のことでいっぱいになるのではなく, 相手に思いを伝えるということを意識していきたいです。
I	文法については, これまで学習してきたことや, 辞書の例文も参考にして, 解決することができた。ただ, 辞書を使ってもどうにもならないところは多くあったので, そこは自分の中から絞り出して, 別の表現で表すということもあった。語彙にしても, 辞書で調べることはもちろん(そのおかげでいくつか自分の中でも語彙が増えた)他の言葉で置きかえてみたりという力も大切だとわかった。
J	学習を通して原こうを書く力, 読む力, 話す力を最大限に引き出すことができた。また, 自分たちが演じるキャラクターの動作を考えて, 近い言葉で書く「ト書き」は, やったことがなかったのが, 新鮮に感じて興味がわいた。
K	まずストーリー作成の時, 表現したい言葉を英語にして, 知らなかった英単語にたくさんふれあうことができました。これは英語の「語い力」に関係しています。その単語を, 文章にし, 「文法の力」, 書いて「書く力」, 書いた文を「読む力」, 暗唱し, 班で通すことによって「話す力」, 違う班の発表を聞いて「聴く力」と, あらゆる力を身につけることができました。身についた力をどう伸ばすかはこれからの家庭学習や授業内活動につながります。これからもがんばります!
L	普段の個人の発表と違い, 一つのお話のような展開作りが必要でした。その中で初めてふれた言葉も多く, とてもおもしろかったです。日本語で生活していても実は身の回りにはたくさん英語があふれているんだと改めて感じました。その中でも, 状況に合わせた言葉を適切に選べたと思います。何度も意味を調べ, 「この表現でよいだろうか」と自問自答, 時には先生の手もお借りし, 導き出した言葉です。とてもよくできたと思っています。
M	この学習を通して, 今まで知らなかった文の作り方や単語を知ることができました。1つの単語をやくすにもいろいろな表現があったので, 使う時や場合に合わせて使い分けることが大切だなと思いました。言葉だけでなく, 表情で表現することももってこいたら良かったなと思いました。
N	TV を作る時に「この単語は習ったから, みんなに分かってもらえるぞ!!」など単語も何を話すかなどを考え, できるだけ相手に理解してもらえるような工夫を考えることができて, 話す力がついたと思うので, 良かったです。でも, TV 撮影本番の時につまってしまうと, ちゃんと相手の話を聞いていれば, 普通に感想を言うだけだったから言えるはずなのに, それが言えなかったから, セリフみたいになって「覚える」ということを基準に考えてしまっていたから, 感情はすぐに言えるようにしたいなと思いました。

## ②汎用的な力に関する振り返り

A	私はこの活動で、班のリーダーとしてとりくみました。班のみんなは、相手の意見をしっかりと聞いて受容する力があって、スムーズに議論を進めることができたと思います。しかし、予定より遅れることがしばしばあったので、計画する力はあまりなかったのかなと思いました。まは、表現の力も、欠けていると感じました。
B	活動中での話し合いの際、リーダーかつ1人の参加者として自分が良いと思ったものを取り入れ、他を受け入れないのではなく、全員に意見を求め、それをもとにして話し合いを進めていく力を養うことができた。しかし、それに時間を使いすぎてしまったせいで、他の活動が遅れてしまうこともあったので、今後もリーダーという立場に立つことがあればそこを改善し、もっと有効に時間を活用したい。
C	班で意見が4つに分かれていた中で、みんなが自分の意見を押し付けることなく、話し合いだけで解決できたのが良かったです。相手の意見を尊重することが大事で、取り入れることが話し合いで一番大事だなと思いました。
D	最初の方は、遠いよしがちで「何でもいいよ」などあまり協働できてなかったと思いますが、本番が近づくにつれて、「ここはこう」など自分の意見や疑問を言えていたので、最後の方は協働できたかなと思いました。
E	僕はついた力に「議論する力」を選びました。理由は、相手に流されて、いつも自分の意見が言えなくなってしまうからです。 <u>このことを意識して学習を行った結果、自分の意見をみんなに話し、相手の意見を聞くこともできるようになり、違う科目の授業でも、自分の意見を言ってみなで発表を創り上げることができました。</u> これからもグループ内での話し合いの時には、自分の意見も述べて、相手の意見を尊重していきたいです。
F	「議論する力」、「表現する力」、「実行する力」はもともと得意で、今回の活動でもその力をいかせたと思います。一方、「受容する力」は苦手でした。自分の意見ばかり言ってしまふところがあったので、この活動を通して、相手の意見をちゃんと受け入れる力が身についたと思います。
G	班での学習で、英語の得意・不得意や苦手なことをおぎないながら、その分、全員で意見を出し合ったり、納とくしたりして、進めていけたと思う。一番難しかったのは、内容を決めるときで、だれかが、少しがまんしたり、ゆずることで班がまわっていくような感じがした。
H	特に力が身についたなあ、というのは、計画する力と改善する力かなと思います。早いうちに計画を立て、根本的なストーリーを作り、何度も何度も改善しました。これによって、私が目標としていた決定する力を育ててくれたと思います。あと、班のメンバーの協働と受容がハンパないくらい身につけていました。仲間に恵まれました。
I	実行する力は、リーダーが一番発揮しやすいものだと思っていたけど、リーダーじゃなくても、サポートしたりするなど、自分のできることがあるんだと思った。他の授業や活動でも、さまざまな役に就いて、支えたり支えられたりしていきたいと思う。
J	判断力や協働する力を身につけたかったが、少し難しかった。色んな人と協力すれば、その分意見やアイデアがふくらんでいくので、最終的な判断を下すのは難しい。でも、たくさんの意見の中で、本当に大切なものは何かを探ることができるようになった。
K	班で考えることが多かったので、協働することができたと思った。自分の意見を発言するときに気を配ることができたり、話すことは得意ではなかったけれど、コミュニケーションを自らとりにいくができた。班の人がどう思っているのか考えながら話せた。班で1つの番組をつくるので、話し合うことが自然とたくさん出てきかかわりが少し深くなったと思った。

## ③感想・自由記述

A	汎用的な力の中に省察する力や改善する力というものがあり、これからのとりくみや学習で、とても大切な力になったと思いました。今回は班のみんなの中でセリフを覚えていないなどの良くないところがあったので、自分のまとめる力が不足していたように感じました。次に活かせるようにしたいです。
B	メンバーと一緒にセリフを考えていると、文法のミスやスペルミスがたくさん見られたので、もっと正確に書く力を優先的につけていべきだと思った。他の班の発表を見ている時も声が大きく、早口でもないのに聞きとれないということが何度かあったので、書く力や文法の力だけでなく、読んだり聞いたりする基本的な力もつけておくべきだと思った。次にこのようなことをすることがあったら、もっとたくさん練習するようにしたい。
C	発表とかでは、相手の興味をひくことが大切なので、おもしろくしたり、気になってしまうような内容にした方がきちんと聞いてくれるし、伝えたいことが上手く伝えることができる。
D	僕は、つきたい力に苦手な分野(書く、議論)を入れたのですが、こうしてワークシートに書いたり、班の人と話し合いをすることで、少しでもこのつきたい力を上達させることができました。
E	はじめは全くどのような人で、流れで、時間で…ということが分かっておらず、とても不安だったけど、時間を重ねるごとに、班のみんながアイデアを出し、「もっとこうするべき」とか「これをしたらいいんじゃない?」とか、より良い発表を目指して頑張ったからこそその発表だったかなと思いました。

F	伝えるためにはどうしたらよいか,どのようにしたら盛り上げるかなどを考えて TV 制作をしたけど,そのときに,あまり客観的に自分たちの班を見れず,実際に視聴してみると,聞きとりづらくて,伝わりにくくなっている場面や,盛り上がる場面なのに言うことにしか意識できなくて,感情が入らず,おもしろくなくなっていたりしていた。だからもっと伝えるための工夫のメリットだけでなく,デメリットも考え,もっと客観的に自分を見ようと思った。
G	自分たちの個性をだせている人や,自分のからをやぶっている人が多くいたので,驚きが生まれたりした。表現する力が自分なりにある人が,自分が思っていたよりも多かったのも,この人をまねてみようなどを考えながら見ることができた。良い機会だなと思った。自分たちの考えた作品を全員が良いなと思ったりということはほとんどゼロに近いけれど,自分たちなりに考えて作って伝えることができたので,良いなと思っている。
H	<u>東雲憲章の2つ目にある「時間を大切にし」を特に意識して学習しました。</u> 今回,自分的に時間が短かったのも,より時間を大切にできました。これから時間を大切に生活していきたいです。
I	この学習を通して,「個人の質」ではなく,「グループの質」を高めることを意識して取り組んで,前よりも「人を見る力」がついたかなと思います。
J	みんな,面白いストーリーだったり,自分の特技を見せていたり,見る人を楽しませる工夫をしていてすごいなと思いました。見ている側を楽しませるものが多く,見ている方も拍手をしたりして参加しているのがいいなと思いました。班ごとに個性があって,とても面白かったです。
K	どの班の発表を見ても工夫がされている点をたくさん見つけ,とても面白く上手に表現していると感じました。他の班からの学びが大変多くあり,とても勉強になった。セリフを覚えることだけでいっぱいにならず,身ぶり手ぶりなどの体での表現や元気で笑顔な表情でやるなどまだまだ欠けている所があったなと気づけました。 <u>来年の活動では,今回の活動をかてにどんどん成長し,周りを驚かせたいです。</u>
L	<u>学習を通して,英語本質の力,汎用的な力がたがいに連動していることがわかった。</u> 自分や見ている人にとってわかりやすく楽しいように,を私は芯として,演じることができた。他の班との交流などを通して,見習う点,改善する点が見つけやすくなった。
M	今回の学習で,自分が相手に難しい表現を使って説明するとき,身ぶり手ぶりや表情,声の印象で表すと,分かりやすく伝えることができるということが分かりました。また,計画的に物事を進めることにより,自分の動きについて考えなおす余裕が生まれ,相手にわかりやすく伝える意識が出て,実行することができました。次からも続けていきたいです。
N	この学習を通して,「客観的にものを見る」ということの大切さを実感しました。なぜなら,発表を見て評価する側の気持ちになることで,新たな気づきを発見できるからです。
O	とても楽しい学習だった。自分達が1から作り上げていくなかで,単語・発音・感情表現と,人と話す時に大切なことを学べた。共に高みを目指そうとがんばる班のみんなといっしょにいて,自分も感銘を受けた。こんな学習をこれからもしたいと思った。

以上が一部ではあるが,それぞれの視点からの生徒たちの生の声である。概して言えることは,同じ活動を行っていても生徒によってそのとらえ方は様々である。それは,各人の経験やとらえの視点が異なるから当然である。どの生徒にも言えることがある。それは,体験・経験から実践的に学ぶこと,実感を持って学ぶことが生徒を育てるということである。その際,教師は,ただ漫然と生徒に活動に取り組ませるのではなく,資質・能力を意識させることで,生徒も目的意識を持って活動に取り組んでいくことがわかる。生徒に,つきたい力を意識させることで,振り返ったときにその力がついたので客観的に見ることができ,教師の想像以上の学びと気づきが得られ,成長を促進するものである。

### (3) アンケート・振り返りからの総合的考察

本研究の仮説に対して,アンケートおよび振り返りから総合的な考察を加えたい。

まず,「(1) 生徒たちが,番組づくりというグループで目的をもってコミュニケーションをとり,協働的に課題を解決していく活動を通して,英語学習への関心が高まり,英語への学習意欲・動機を高めることができる。」についてである。この仮説は,アンケートからは,英語への興味・関心度が5段階で5と答えた生徒がプレでは,33%であったが,ポストでは42%と9ポイント増加している。この部分においては,英語学習への高まりを見とることはできる。しかし,興味・関心度が4の生徒は,52%から45%へと7ポイント減少しており,この減少部分の生徒が5に移動したと考えられる。興味・関心度が3・2と答えた生徒は若干減少したものの,ほぼ変わりはないので,課題としてはこの層に対して,いかにして興味・関心への働きかけができるかが挙げられる。以上より,本活動を通して,英語学習への興味・

中島義和・檜葉みつ子(2020),「汎用的な能力の育成を目指した協働的な学習活動の試みー英語科の活動を通してー」, 広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第50集」, 29-42.

関心は生徒の8割から9割において高まった,あるいは高く維持されているが,興味・関心が並である,あるいは低い生徒への興味・関心付けのある学習をさらに提供すべきという課題も得ることができた。

また,(2)③の自由記述から,生徒Kのように,「来年の活動では,今回の活動をかてにどんどん成長し,周りを驚かせたいです。」と他者を驚かせるほどの成長を目指していきたいという学習へのさらなる動機が見てとれる。あるいは,①教科本質の力の振り返りでは,生徒Bは,「いつか外国の人と英語だけを使って,会話をしてみたいと思っていたけど,その気持ちが強くなりました。発音にも気をつけて学習していきたい」と話すことへの学習意欲を示すなど,具体的な領域への学習動機・意欲が高まった生徒も見られる。

次に,「(2)本活動を通して,英語科の学習だけではなく,他教科や他の場面でも活用が期待できる汎用的な能力を身につけるきっかけが得られる。」についてである。これについては主として生徒の記述の振り返りから見るができる。(2)②での記述で生徒Dが示しているが,「このことを意識して学習を行った結果,自分の意見をみんなに話し,相手の意見を聞くこともできるようになり,違う科目の授業でも,自分の意見を言ってみんなで発表を創り上げることができました。」というように,他教科での学習にも本活動での経験が転用できている様子うかがえる。また,(2)②の他の生徒の記述にも,他教科・他場面でも活用可能な汎用的な資質・能力が示されており,仮説(2)の「きっかけ」を提供できていると考えられる。

## 4-2. 成果と課題

### (1) 成果

本研究の核となる「番組作り」の活動は以前にも実践(中島,2011)したことがあった。今回の実践が前回の実践と大きく異なる点が2点ある。1点目は,今回は,汎用的な資質・能力を生徒にも示し,意識させながら実践した点である。2点目は,コロナ禍による休校のため6月から授業が本格的に始まり,様々な制限からグループ活動をほとんどしてきていなかった点である。この2点において,比較検証ができたことは意義深い。

まず1点目の差異は,生徒たちの活動への意識を全く異にしている。活動前に,資質・能力を意識させること,毎時その資質・能力を意識して振り返ることで,自分にどのような力がついたのか,あるいはどのような力が足りないのかを客観的にとらえようとする姿勢が身についていく。これは,新学習指導要領の3観点の一つである「主体的に学びに向かう態度」を育成するものであると考える。また,今回の実践では,学校経営目標や生徒の行動指針である「東雲憲章」との関連についても授業内で示した。以前の2年生対象の実践(中島,2012)でも,学校教育目標を意識させた活動に取り組んだが,1年生のうちから学校目標を教科の授業内でも意識させることは効果的であったと感じている。生徒の振り返り(2)③の生徒Hの記述にも「東雲憲章の2つ目にある『時間を大切にし』を特に意識して学習しました。」とある。常日頃から,学校が目指しているところを生徒と共有し,ともにその達成に向けて授業づくりをしていくことは,目標を「絵に描いた餅」にしないためにも重要である。

2点目の状況の違いは,生徒の活動面において相当大きな違いを生んでいた。やはり,グループ活動を頻繁に行ってきた学年と,そうではない学年では,活動の進め方のスムーズさや要する時間が変わってくる。これは実践を行う前から明白なことではあるのだが,「慣れ」は重要なのだと改めて実感した。

この2点の差異はあったものの,1点目の「能力への意識」が,2点目の「グループ活動経験の不足」を若干ではあるが,補った感はある。絶対的な活動経験量は必要であるのだが,意識面でも啓発や動機づけは学習促進において重要な役割を果たしていると言える。

本活動実践を,英語科の視点から振り返ってみると,学習した言語材料や語彙を活用することができた点,グループで協働し一つのものを創り上げる経験ができた点,上位層にとっては,英語力の不足を感じ,さらなる英語学習の動機付けとなった点,下位層にとっては,英語への得意度・自信度が上昇し,苦手意識が軽減された点が,成果としては挙げられる。そして,この活動を通して,協働的な課題解決型の学習へのやりがいや達成感が生徒たちに感じられたことは英語学習への動機づけにも良い影響を与えるであろうし,この学習活動で経験したプロセスは他教科・他場面でも活用の可能性があることから学びの多様性にも貢献するであろう。それらは,まさに新学習指導要領で求められる「主体的対話的で深い学び」の姿を個にも集団にももたらす可能性を持つものではないかと考える。

## (2) 課題

本活動を通して、時間の使い方に課題が感じられた。前述したように、生徒のアンケート結果から見て、つけることができなかつたと感じられた汎用的な力がいくつかあった。他者の意見を受け入れながら、議論を深めたり、活動の質を高めたりという姿がほとんど見られなかつた原因として、時間の不足による余裕の欠如が挙げられる。時間を効率的に活用し、作業を無駄なく進めていくという経験をする機会をさらに設け、実践的にその感覚をつかんでいく必要があるだろう。表現についても、表現を磨くことができる段階まで到達せず、作品を完成させるところまでで精一杯であったグループが多かつたように見えた。表現の工夫を楽しめる余裕やゆとりを持てる活動展開を期待したい。

今後は、本活動実践もふまえ、さらにテーマ性の高い、世界や社会とつながる課題の解決に向けたSDGsを扱った協働的な課題解決学習を英語の授業の視点から取り組んでみようと考えている。以前の実践(中島, 2015)では、ESDの視点からアメリカの学校との交流学习を試みた。教室外に英語話者である交流相手がいるということは、現実味のあるコミュニケーションが成立し、英語を用いることの「必然性」が生まれる。高島(2020)は、授業改善のキーワードとして、「課題解決」、「必然性」、「言語活動」を挙げ、これらを常に意識した活動について検定教科書をふまえて仕組むことで、外国語活動・外国語においても「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」と「学びに向かう力・人間性等」と育成される、と述べている。この視点から考えて、国際交流を通した外国語学習の意義、生徒への動機づけは大きい。本校にはアメリカに交流校がある。そのメリットを最大限に生かし、生徒たちが身のまわりのみならず、世界の諸問題に目を向け、解決しようとする姿勢を養い、そのプロセスでツールとしての英語の重要性をより実感し、それが生徒たちの英語学習への意欲や動機となる学習活動を実践していきたい。振り返り(2)③で生徒Lが「学習を通して、英語本質の力、汎用的な力がたがいに連動していることがわかつた。」と記述している。英語科の活動を通して、汎用的な資質・能力の育成を目指し、それらを生徒に意識させながら協働的に課題解決に取り組む機会を与えることで、生徒はその汎用的な資質・能力を体験的に獲得しようとする。それは英語という一教科と他教科、他の学校生活場面、より広範な社会生活の場面へと転用され、このグローバル社会を生き抜く上で必要不可欠な力へと成長していくことだろう。中学校では、その力の「種まき」としてのきっかけづくりを今後も目指していきたい。

## 【 引用・参考文献 】

Dörnyei, Z., *Motivational strategies in the language classroom*, Cambridge: Cambridge University Press, 2011.

Dörnyei, Z., *The psychology of the language learner: Individual differences in second language acquisition*, Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates, 2005.

本田勝久, 「動機づけ研究」小寺茂明・吉田晴世(編)『スペシャリストによる英語教育の理論と応用』, 松柏社, 93-107, 2008.

中島義和, 「表現の工夫を意識させる授業づくりー「表現する力」の育成を目指してー」『お茶の水女子大学附属中学校紀要』第40集, 53-76, 2011.

文部科学省, 『中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 総則編』東洋館, 2017.

文部科学省, 『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂, 2017.

中島義和, 「表現する力の育成と学校教育目標を意識した活動ー生徒たちが自ら創り上げる英語発表活動を通してー」『お茶の水女子大学附属中学校紀要』第41集, 73-100, 2012.

中島義和, 「コミュニケーショントピックとしての『日本』を知り、考え、発信へとつなげる英語科の授業を創るーESDの視点からー」『お茶の水女子大学附属中学校紀要』第44集, 1-26, 2015.

高島英幸, 『タスク・プロジェクト型の英語授業』, 大修館書店, 16-19, 2020.